

旧晴海鉄道橋を遊歩道化

1957年の完成以来、長く東京の物流を支えた旧晴海鉄道橋（晴海橋梁）が、約70年を経て歩行者に開放されたII写真。廃線となって35年が経過した橋梁を活用し、晴海と豊洲を結ぶ新たな遊歩道として供用が始まった。「遊歩道化」にはオリエンタルコンサルタンツが検討段階から携わり、景観デザインや補修・耐震設計などを担当した。

東京都港湾局が管理する江東区にある春海橋公園の一部として追加開園した。鉄道橋としては国内初の鋼ローゼ橋、アプローチ部分も鉄道用PC橋として国内初の3径間連続桁を採用しており、技術的価値は高い。今回の整備では、レールや内側の護輪レールを残しつつ、ウッドデッキ舗装を施した。当時の枕木やバラストを見せるガラス床や、建設当時の色を再現したアーチなど、歴史を感じさせる工夫が散りばめられてい

オリコンサルが景観デザイン

る。

同橋は、臨港鉄道港湾局専用線晴海線の春海運河を渡る橋梁として、57年に竣工し、貨物線が役割を終える89年までの32年間、首都圏、さらには日本の経済成長を支えた。夜間ライトアップや展望テラスなども交えて、その歴史と景観を伝える。

